

パナタガー嶺の海軍砲台・トーチカ



所在地：平良字西原（パナタガー嶺のファームポンド付近）

宮古島内では数少ない高地のひとつであるパナタガー嶺（標高95.4m）の中腹にあり、50mほど琉球石灰岩を掘り抜いた壕となっています。通路の幅は大砲を入れるために広く、砲台設置場所はコンクリート造りで、階段を上った先には着弾地点を確認するための観測場所もあります。戦後、鉄が高く売れたため、コンクリート部分は鉄筋を取り出すために削られており、地面に欠片が散乱しています。

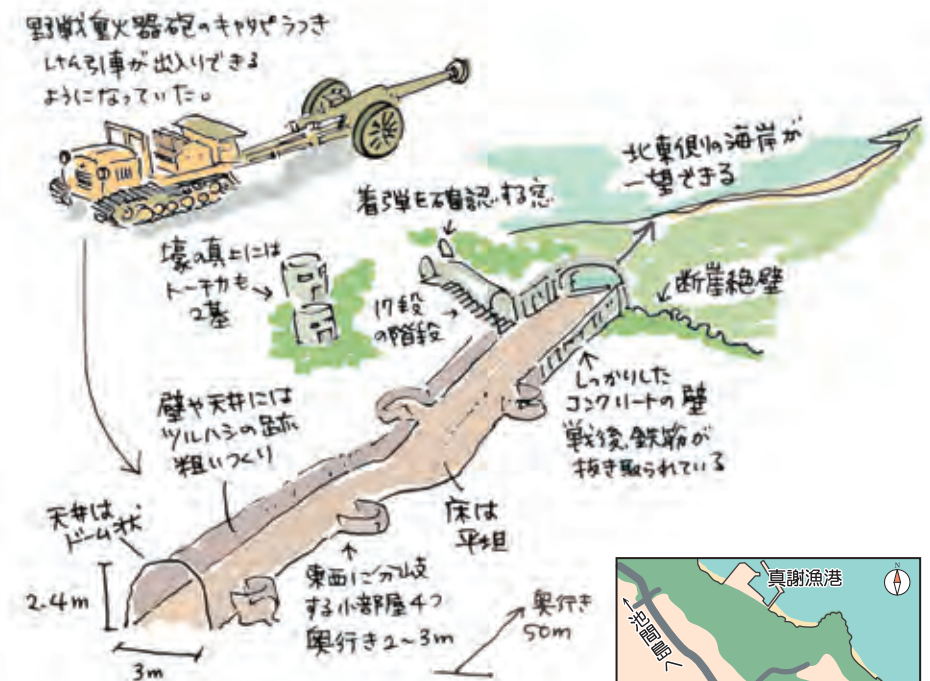
この壕は「海軍第313設営隊第2中隊」が構築し、14センチ加農砲が設置されたと言われています。部隊は「山砲兵第28連隊」の指揮下であった「先島集団砲兵隊」が駐屯しました。



観測場所へつづく階段



鉄筋を抜かれたコンクリート壁



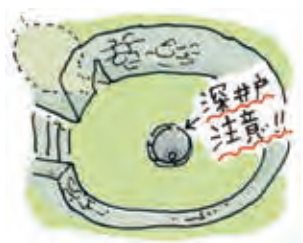
※本壕は「ピンフ嶺の野戦重火器砲台」と報告されていた壕の名称を2007年に変更したのになります

しら ぱり がー じゅうみん ひ なん ごう
白原井の住民避難壕



しよざい ち ひら ら あざに しな か そ ね そえ どうしゅうらく ひがしがわ
所在地：平良字西仲宗根（添道集落の東側）

そえ どうしゅうらく ひがしがわ はたけ なか しら ぱり がー
添道集落の東側の畑の中に白原井と
よ 呼ばれる井戸があり、その脇に掘り込
まされた壕です。壕口は1 m四方と狭
く、内部は広くなっています。添道地
域は町中の住民の避難場所になってい
て、空襲の激しくなった1944年10月
以降に造られたと考えられています。



な そ こ ごう
那底の壕



しよざい ち ひら ら あざ しもきと みやはら いりぐち ふ きん
所在地：平良字下里（宮原入口付近）

この壕は野原岳から続く尾根の北端にあります。出入り口
は2か所あり、内部でコの字型に繋がっています。壕口付近
は壁、天井とも荒く削られています、奥の方の壁は丁寧に
削られています。陸軍病院として使わ
れていた鏡原小学校裏手の丘陵のすぐ
近くで、近辺には多くの壕があったと
いわれ、そのひとつと考えられます。



もり か ごし かい ぐん つう しん たい ごう 盛加越の海軍通信隊壕



しょうざいち ひら あざひがしなかね もり か ごしこうえんない
所在地：平良字東仲宗根（盛加越公園内）

この施設は、盛加越公園内に3本のコンクリート造りの通気口が残っており、通気口の地下に4畳半から6畳程の部屋を3つ繋げた構造の地下壕があります。公園整備の際に出入り口などが塞がれ中を覗くことはできません。「日本海軍通信隊」が使用し、モールス信号の受信や飛行機の離発着に必要な気象状況の観測などが行われていました。



くり ま さん ぼう じん ち ごう ぐん 来間の山砲陣地壕群



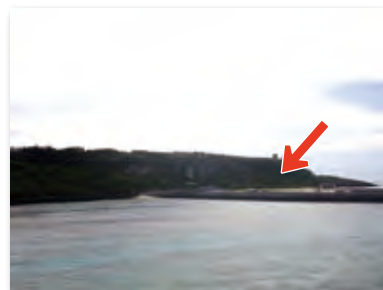
しょうざいち しも じ あざくりま
所在地：下地字来間

この壕群は、来間漁港北西の急崖の中腹に位置し、ふたつの壕が並んでいます。砲口はコンクリートで固められていて、宮古島の南西部を見渡すことができます。この壕は「山砲兵第28連隊」の「第6中隊」が使用していました。砲口のひとは東側、もうひとつは北側を向いていて、下地方面の防衛にあたっていたと考えられます。



し ぜん ごう り よう だい き ぼ
自然壕を利用した大規模な住民避難壕

ちふさアブの住民避難壕



えんけい
遠景



こうないぶ
壕内部

しよざいち しもじあざくりま くりましまひがしかいがん ふきん
所在地：下地字来間（来間島東海岸付近）

くりまさんぼうじんちこうぐん やくきたがわ くりましまひがしかいがん きゅう
来間の山砲陣地壕群から約200m北側の、来間島東海岸の急
崖の中腹にある住民避難壕です。コンクリートで造られた入り
口は縦90cm、横50cmと狭く、入り口付近は急な傾斜になっ
ていますが、内部は広く、約200人が
入ることができます。入り口以外は全
て自然の鍾乳洞からなっていて、別名
「千人ガマ」と呼ばれていました。



がんしょう なか のこ
岩礁の中に残る機関銃壕

タカシガバーの機関銃壕



しよざいち うえのあざみやぐに はくあいぎょうなんとうかいがんせんぞ
所在地：上野字宮国（博愛漁港南東海岸線沿い）

この壕は、うえのドイツ文化村の南側の海岸沿いに広がる
岩の突堤にあり、壕の真ん中には石灰岩をえぐって機関銃を
据えたとと思われる台座が残っています。この台座に銃の軸を
差し込んで安定させ、三脚で固定して
目標物に照準を合わせたのではないかと
考えられています。



重
火
器
砲
壕
・
機
関
銃
壕

宮古島を代表する戦争遺跡群

野原岳周辺の戦争遺跡群

この遺跡群は、標高108mの野原岳から南の大嶽城跡公園まで、40基の壕と、3基のトーチカ、コンクリート造りの電波探知機壕2基と発電施設壕があり、宮古を代表する戦争遺跡です。野原岳は宮古島の中央に位置し、標高が100m以上の高い山で見晴らしがよいことから、第28師団の司令部壕を始めとした軍関係の施設が多く建設されました。現在は航空自衛隊宮古島分屯基地内にあるため、多くは直接見ることはできません。

電波探知機壕

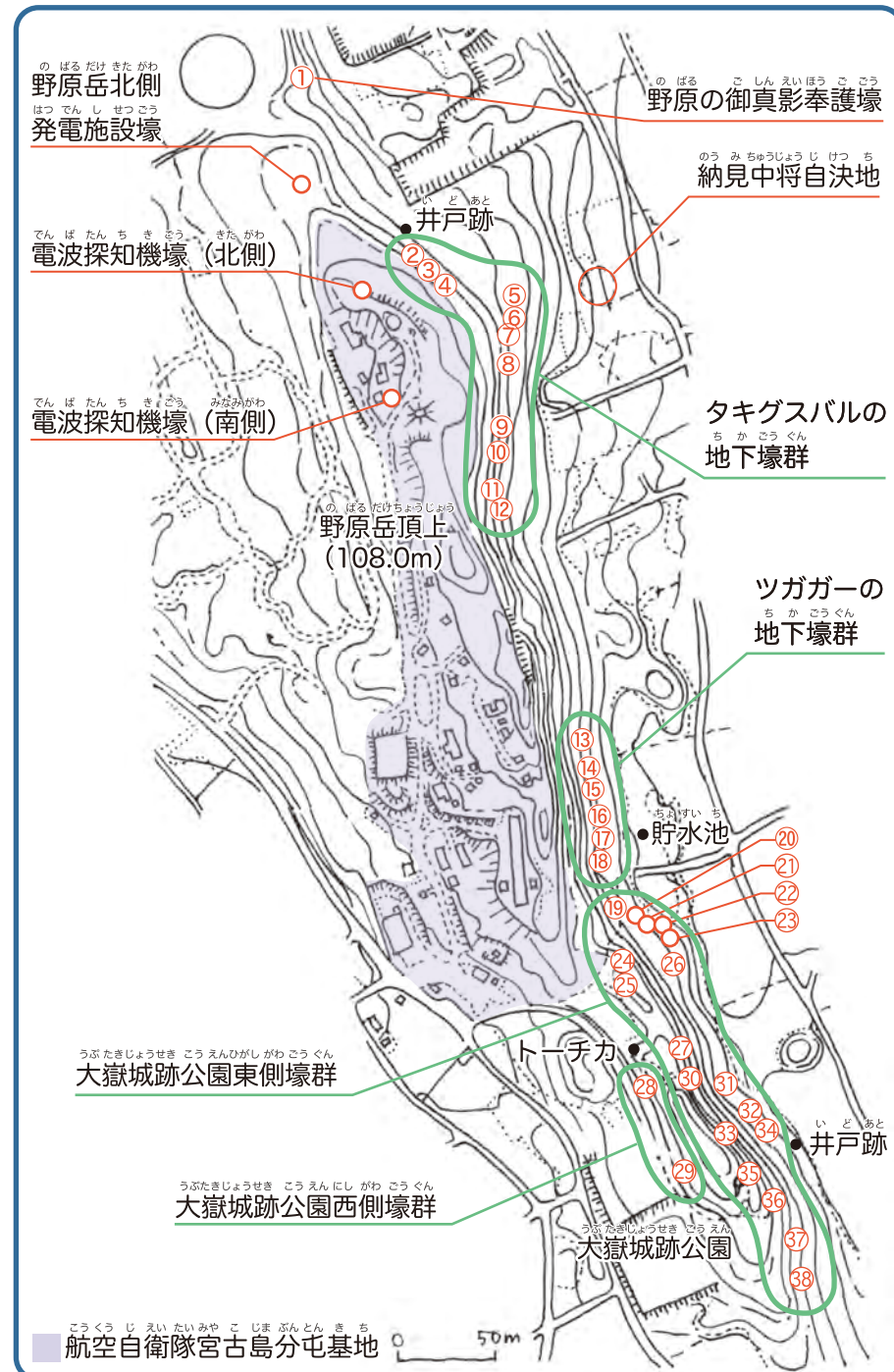


電波探知機壕Ⅰ（基地内）



電波探知機壕Ⅱ（基地内）

この壕は敵機来襲への警戒を目的としたもので、コンクリート造りの2棟の壕を通路で繋ぐ形をしており、野原岳に2基設置されています。



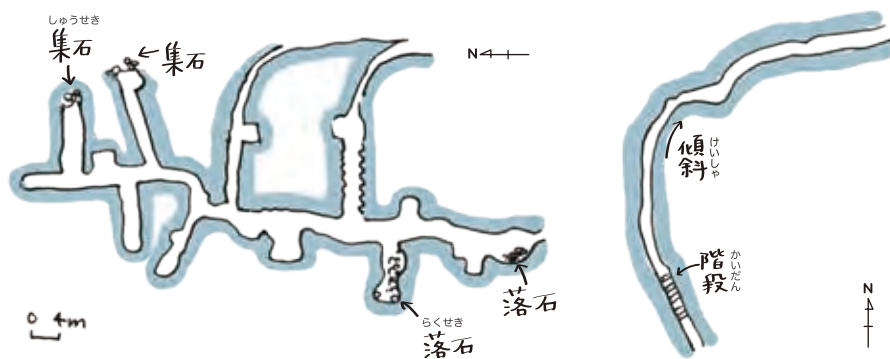
チカゴウグン タキグスバルの地下壕群



まつざい いちぶのこ
松材が一部残っている（壕⑤）



かいだん つうろ
階段のある通路（壕⑦）



⑤の壕

⑦の壕

これらの壕は、野原岳の東側一帯に点在する壕です。中でも⑤の壕は、総延長80mにおよぶ大規模な壕で全て石灰岩を削り込んで掘られています。聞き取りや体験談などからこのあたりに司令部壕があったという証言があり、また、壕の規模や柱などを有する構造から、この壕が第28師団の司令部壕であったと考えられています。内部は数百人を収容できる広さでした。

チカゴウグン ツガガーの地下壕群



ツガガー

ツガガーと呼ばれる井戸の周辺に、15基の壕があります。壕の大きさと聞き取り調査から、ツガガーの壕群は戦車を配備していたと考えられます。井戸は日本陸軍が接收し、コンクリートで固め、軍の上層部が水浴びに使用していたようです。

うぶたきじょうせきこうえんにしがわこうぐん 大嶽城跡公園西側壕群・トーチカ / うぶたきじょうせきこうえんひしがわこうぐん 大嶽城跡公園東側壕群

西側壕群は、展望台のすぐ北側に3つのトーチカがあり、その下部にある壕は、歩兵第3連隊に関連する施設と考えられています。東側壕群の詳しい用途については不明ですが、聞き取り証言から、戦車壕がいくつか配置されていたと考えられます。また③⑦、③⑧の壕は総延長約100mで薬品の瓶が散乱しており、病院壕として使用されたと考えられています。

2003年の台風14号によって一帯に土砂が流れ込み、小規模な壕のいくつかは壕口が埋没してしまっています。



てんぼうだい きたがわ
展望台の北側にあるトーチカ

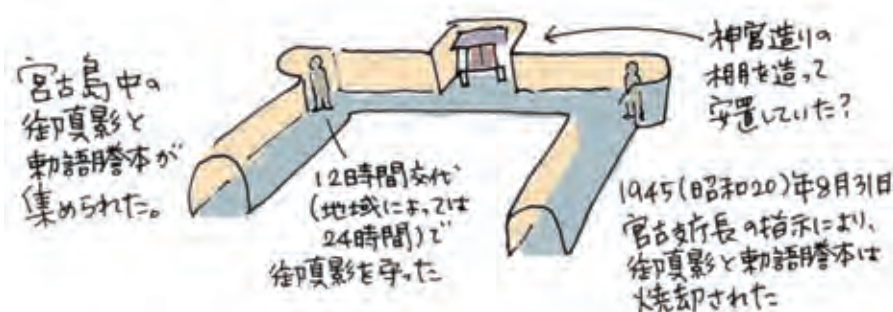
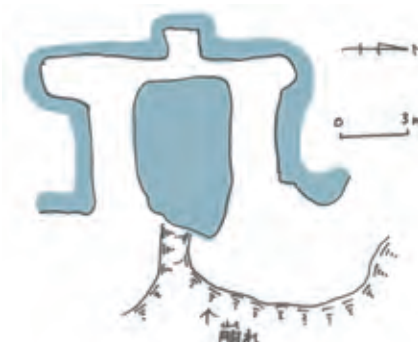


しょうざい ち うえ の あざの ばるかがみはら
所在地：上野字野原鏡原

1944(昭和19)年10月10日の「十・十空襲」をきっかけに、戦火から御真影(天皇・皇后の肖像写真)を守るために、宮古の各学校に置かれていた御真影をこの奉護壕に避難させました。壕は各学校の男性教員の手で掘られ、12時間交代で守られました。内部には白木で組まれた神宮造りの棚が作られ、守衛にあたる教員は、拝礼をしてから勤務したとされています。



ご しん えい あん ち たな かんが
御真影が安置されていた棚と考えられる



ご しん えい 御真影とは



戦前、天皇は現人神(この世の神)とされていました。歴代天皇の写真(御真影)は、天皇と同一視され、全国の学校で、もっとも神聖なものとして扱われました。

奉護・奉焼：「護る・焼く」を丁寧に言ったことば
教育勅語：正式名称は「教育ニ関スル勅語」。明治天皇が国民に道德のあり方を語
りかけた「お言葉」
謄本：原本の内容を全部写して作った文書

けん ない ゆい いっげん ぞん ひ こうじょう もう し き しょ
県内唯一現存する、飛行場に設けられた指揮所

りく ぐん なか ひ こう じょう せん どう し き しょ あと
陸軍中飛行場戦闘指揮所跡

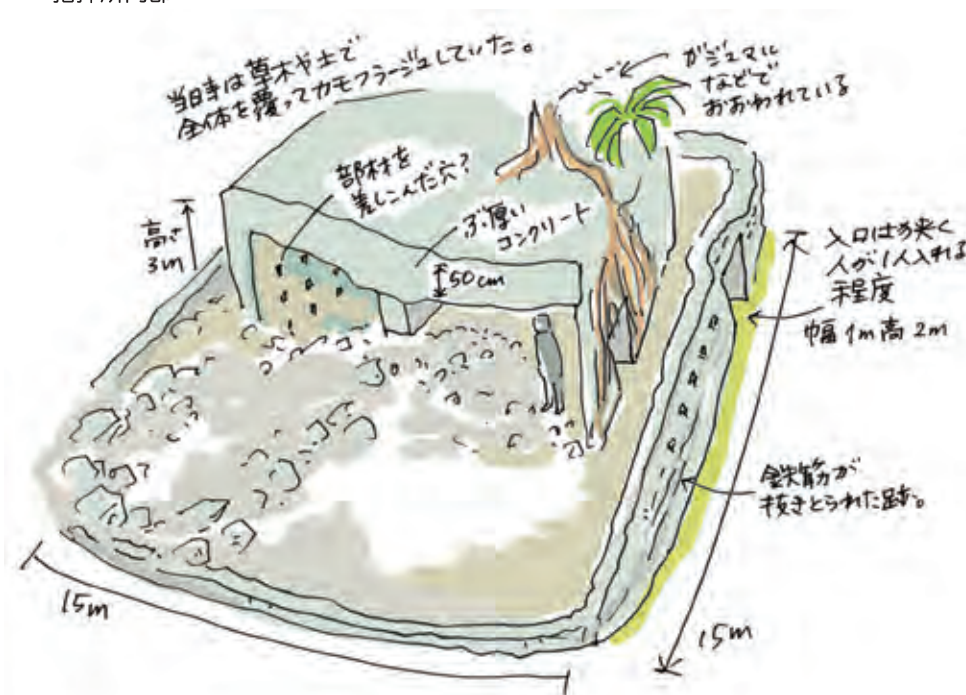


しょうざいち うえの あさうえの けんどう こうせん ぞ
所在地：上野字上野（県道202号線沿い）

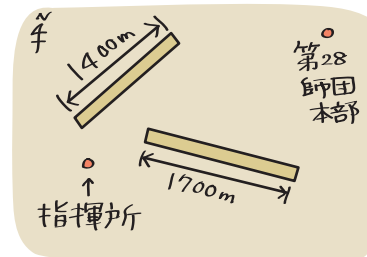
飛行場に設けられた戦闘指揮所跡として現存しているこの戦跡は、沖縄県内唯一のものです。宮古島での地上戦が激化した時を想定し、非常時に指揮官が中に入って指揮をとる目的で造られましたが、地上戦を行うことなく終戦となったため、指揮所としての利用はありませんでした。この指揮所は、「独立機関銃第18大隊山内小隊」が利用した記録が残っています。



し き しょ ない ぶ
指揮所内部



ひこうじょう しきしょ いちかんけい
2本の飛行場と指揮所の位置関係



1944年、
とっかんこうじ
突貫工事で
5ヶ月で完成
させた。



その他

にし さら たけ し れい ぶ ごう
西更竹司令部壕



しよざい ち ぐすく べ あざ しもさとそえ さらたけきゅうりょうち ない
所在地：城辺字下里添（更竹丘陵地内）

この壕は、宮古島の南北に連なる更竹丘陵地の東北側に位置しています。4つの壕口が内部で連結しており、壕の総延長は224mにも及びます。また、壕内には18もの脇部屋が設

けられています。この壕の東側にある西城小学校には、「独立混成第60旅団」の本部が置かれており、その司令部壕ではないかと考えられています。



こうぐち
壕口



わき べ や
脇部屋



あか つ かな ぐ
灯りを吊るするための金具

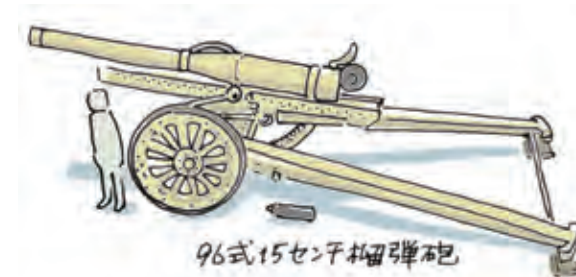
しも さと ぞえ や せん じゅう か き ひ とく ごう ぐん
下里添の野戦重火器秘匿壕群



しよざい ち ぐすくべあざしもさとぞえ
所在地：城辺字下里添

この壕群は4つの壕からなり、野戦重砲第1連隊第1大隊が使用していました。東側の3つの壕は96式15糎榴弾砲を秘匿、設置するために構築されました。壕の入り口は野原岳を望む南西の方角を向いており、野原岳の第28師団本部を後方(東側)から援護することを目的としています。

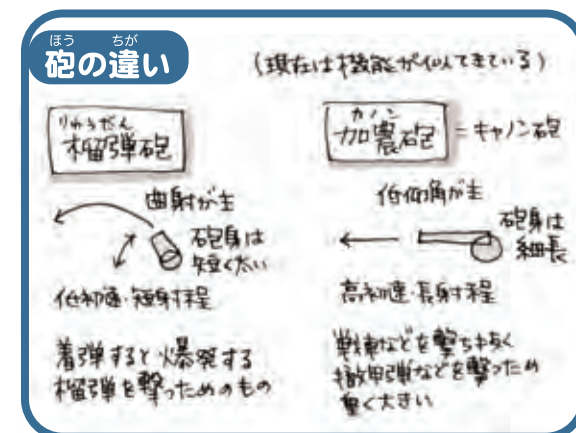
壕①は終戦後に納見中将の命令によって納骨堂へ転用されており、周辺には記念碑が立ち並んでいます。



のうこつどう
納骨堂



かいだん
壕②の階段



アーリヤマの戦争遺跡群



しよざいち くすくへ あざにしざとそえ ひがしやま ふ きん
所在地：城辺字西里添（東山ファームポンド付近）

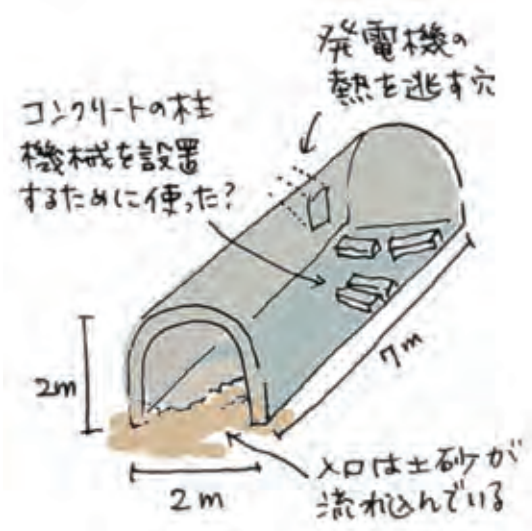
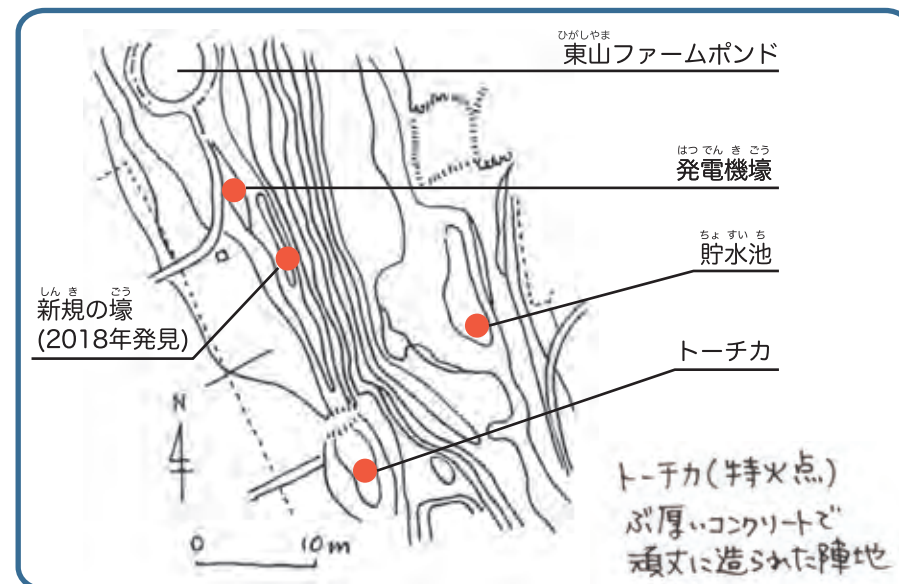
なが やま きゅうりょうち ひがしやま なん とう がわ い ち
長山の丘陵地にある東山ファームポンドの南東側に位置し、発電機壕やトーチカ、貯水池からなる遺跡群です。

発電機壕は海軍313設営隊が構築したと言われています。この近辺に通信隊がいたという資料があり、発電機は電波探知機を起動させるものだったと考えられています。

トーチカは、宮古島南側一帯を見渡せる丘陵の頂上に構築され、見張り台としても利用されました。トーチカの中は、

ふたり程が入ることのできる広さで、岩盤をくりぬいた内部はコンクリートで覆われています。

貯水池は雨水を貯めるために造られ、約2.5m×1.5mでほぼ完全な形で残っていますが、危険防止のため塞がれています。



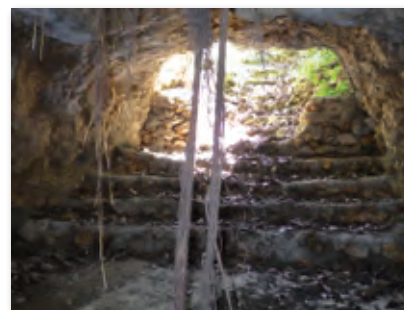
い ら ぶ じま ひら こう まも りゅうだん ほう じん ち ごう
伊良部島から平良港を守る榴弾砲陣地壕

まき やま じん ち ごう 牧山陣地壕



しよざい ち い ら ぶ あざい けま そえ まきやまてん ぼうだい ふ きん
所在地：伊良部字池間添（牧山展望台付近）

い ら ぶ じま ない さいこう ち てん まき やま ひょうこう ちょうじょう ちか
伊良部島内の最高地点である牧山(標高89m)の頂上近くの、
ふ きん せつ ち じん ち ごう てん ぼうだい ゆう ほう ぞ
標高75m付近に設置された陣地壕で、牧山展望台への遊歩道沿
いにあります。ほうぐち ほうぶ にしかいがん いち ぼう ひら
良港の防衛のために設置したと考えられています。この壕は自
ぜん どうけつ て くわ もの いち せつ かい がん ほ こ
然の洞穴に手を加えた物ではなく、一から石灰岩を掘り込んだ
と考えられています。この壕には「野戦重砲第1大隊の第1中
たい さん ぼう へい だい れん たい だい ちゅう どん
隊」と「山砲兵第28連隊第3中隊」が駐屯していました。



壕口



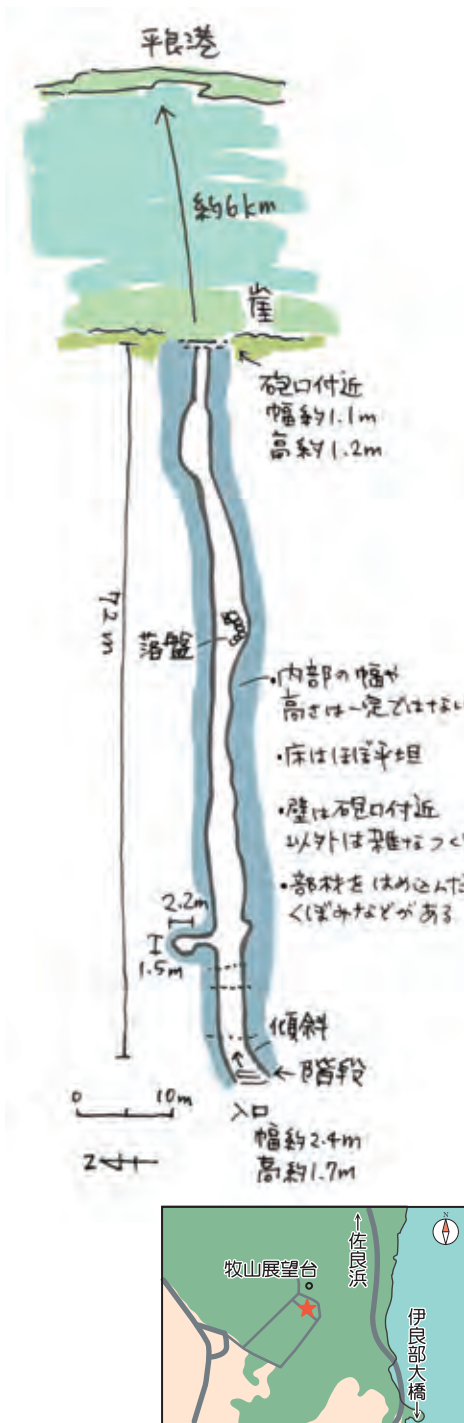
壕の内部



砲口(壕内部より)

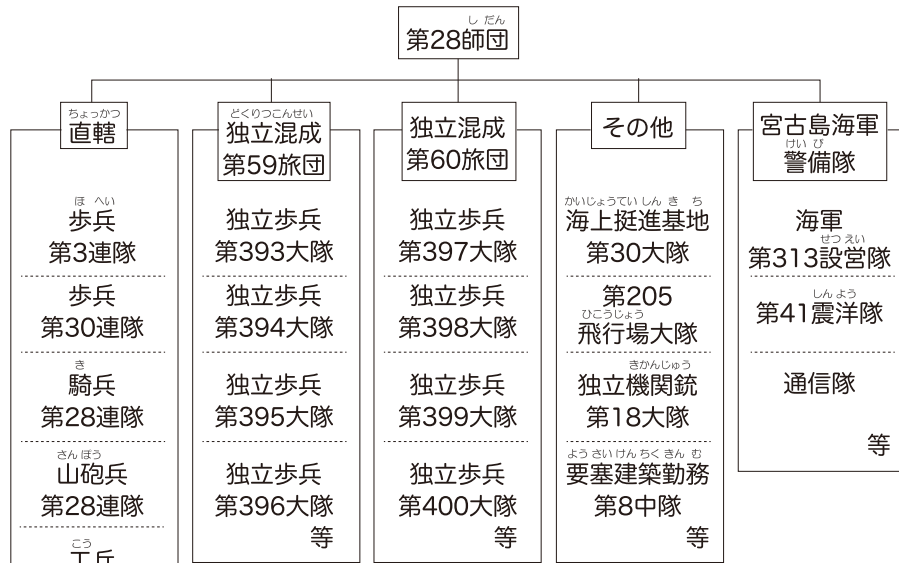


砲口から望む平良港一帯



重火器砲壕・機関銃壕

宮古諸島内に配備された主な部隊編成と用語集



- 第28師団**：通称「豊部隊」。1944(昭和19)年6月28日に満洲で編成され、8月中旬に宮古島へ上陸。納見敏郎中将を師団長として、野原岳に本部を置く。
- 第59旅団**：通称「碧部隊」。1944(昭和19)年8月に満洲で編成され、9月下旬に宮古島へ上陸。多賀哲四郎少将を旅団長として、添道に本部を置く。
- 第60旅団**：通称「駒部隊」。1944(昭和19)年8月に満洲で編成され、9月中旬に宮古島に上陸。安藤忠一郎少将を旅団長として、西城国民学校に本部を置く。

歩兵..... 戦場を徒歩で行動する兵士
 騎兵..... 馬に乗って戦う兵士
 山砲..... 重火器の一種。山地などで使えるよう分解して運搬できる
 山砲兵..... 山砲を保有する部隊の兵士
 工兵..... 橋や飛行場などを建設または敷設、あるいは爆破するために必要な技術と資材をもつ部隊
 輜重兵..... 軍需品の輸送を任務とした兵士
 野戦病院... 戦場に置かれる病院
 海上挺進基地大隊... 特攻艇秘匿壕などを作る部隊

軍の編成

名称	従属部隊	構成人数	指揮官	階級
師団	司令部を有し独立して作戦する歩兵4個連隊を軸とする	1～2万5,000以上	師団長	中将
旅団	2以上の連隊又は大隊で編成	2,000～5,000	旅団長	少将
連隊	数個大隊又は中隊で編成 県・市・区・郡別に置かれた	500～5,000	連隊長	大佐/中佐
大隊	歩兵4個中隊と機関銃1個中隊で編成	300～1,000	大隊長	少佐/大尉
中隊	3～4個小隊からなる	60～250	中隊長	中尉/少尉
小隊	30～50人の小部隊	30～50	小隊長	少尉/准尉
分隊	軍隊構成上の最小単位	12～	分隊長	軍曹/伍長

階級

	しょうとう し かん 将校（士官）									じゅんし かん 准士官	か し かん 下士官				へい 兵		
	しょうかん 将官			さ かん 佐官			い かん 尉官				じゅんし 准尉	ちやうじやう 曹長	ぐんさう 軍曹	ぶちやう 伍長	へいじやう 兵長	じやうとうへい 上等兵	いちとうへい 一等兵
りくぐん 陸軍	だいじやう 大将	ちやうじやう 中将	しやうじやう 少将	だいさく 大佐	ちゆうさく 中佐	しやうさく 少佐	だいじやう 大尉	ちゆうじやう 中尉	しやうじやう 少尉	へいじやう 兵曹長							

飛行場大隊..... 飛行場管理・機体整備・補給・通信・気象等の業務を行う
 震洋隊..... 特攻艇を使った特攻部隊（P21参照）
 野戦重砲..... 野戦に使う口径が10～15cm程度の火力の大きい大砲
 重火器..... 破壊力が大きく重量のある銃砲。重機関銃、大砲など
 速射砲..... 間隔を短く、続けざまに発射可能な火砲
 機関銃..... 引き金を引き続ければ、連続して自動的に弾丸を発射できる火器
 複廓主陣地..... 司令部を中心に幾重にも巡らされた主陣地
 秘匿壕..... 武器や物資などを隠すために造られた壕
 電波探知機..... 電波の発信地を探知する装置。敵機来襲の警戒などにあった
 接收..... 国などの権力機関が個人の所有物を強制的に取り上げること
 復員..... 戦争編制の軍隊を平時体制に戻し、兵員の召集を解除すること
 帰省..... また兵役を解かれて帰省すること
 BC級戦犯..... 第2次世界大戦後、連合国によって捕虜虐待など「人道に対する罪」や「通例の戦争犯罪」に問われた元軍人ら
 遷座祭・奉遷..... ご神体を遷す祭儀のこと・ご神体をよそへ遷すこと
 奉還..... お返しすること

※用語解説は主に『広辞苑』などから作成しました

わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です
たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへん こう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



この冊子は非売品です（NOT FOR SALE）

宮古島市neo歴史文化ロード **綾道(戦争遺跡編)**

発行 初版 2016(平成28)年3月
改訂 2021(令和3)年3月・2025(令和7)年10月
編集・発行 宮古島市教育委員会
〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里1140番地
TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976
イラスト・デザイン 山田 光